

そして、国の直轄事業として昭和28年度から防波堤の整備に着手し、現在は東防波堤(200m)、西防波堤(400m)、1千~2千トン級の船舶2隻と小型船舶10隻が同時に避難できる約25万m²の遮へい水域の完成をみており、近年の船舶の大型化に対応した新たな防波堤の整備を期待しているところです。

また、平成5年に世界自然遺産に登録された「白神山地」を沖合いから望め、海・山の変化に富んだ美しい風景にまつまれた古の響きをもつ港です。

(青森県深浦町建設課 赤平)

みなとのリノベーションと東京湾 ～横浜ランドマークホール～

去る3月30日横浜ランドマークホールに於いて、東京湾港湾連携推進協議会シンポジウムが開かれました。協議会は年2回、東京湾内諸港が緊密な連携を取る事により、広域的かつ総合的見地から東京湾地域の適正な開発、利用及び保全に資する事を目的として設立したものであり、今回は「みなとのリノベーションと東京湾」と題してシンポジウムが開催されました。

今回のシンポジウム前半部「港湾におけるリノベーションの方向性」として今野修平教授による基調講演、後半部は前田二建局長を含めたパネルディスカッションが行われ、会場には多くの聴講者が訪れ「みなと」への関心の高さを感じました。

東京湾ではこれまで親水的空間が少ないといわれ続けているなかで、最近の不況の影響から臨海部の遊休地化が進み、賑わいがなくなってきたことに警鐘を鳴らすことを目的として、このシンポジウムで今後どうあるべきかを各分野で活躍されている先生方からの意見を基に討論されました。

この中で感じた事として、マーケット、景観、地価、流通等あらゆる視点からの検討していく中で、商業的施設も1つの案ではありますが、臨海部のメリット(内陸部より平坦で広い土地が確保しやすい、また海が近い)を生かしながら、結果としてごく自然に市民が集まる広場がそこにあればいいと思います。それには多くの問題を抱える中で、自然を大きく取り入れた中に小さな施設を考え、今後人々がにぎわえ続けることが出来る空間を創出していくことによって、そこにまた新たなにぎわいが生まれていくという、好循環がそこには隠れている気がします。

開発ではなく最大限自然に戻していければ素敵ではないでしょうか。

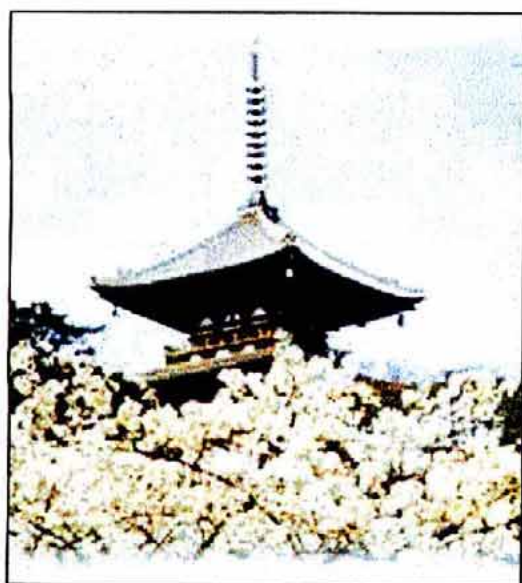
(二建 海域環境課 松森)



編集後記

今回の発行に当り、「日本海のにぎわい」として当局では青森県の西海岸地域と限定されてしまうなかで、青森県深浦町の歴史やロマンについて紹介させて頂くとともに、にぎわいという視点から横浜で開催されましたシンポジウムについて自分の意見を述べてみました。

様々な視点や意見を基にしながら今後の「日本海のにぎわい」について考えていき、またこの紙面を通じ、より繁栄ある日本海のにぎわい・交流海道が続いていければと思います。



日本海のにぎわい・交流海道推進協議会 事務局
第二港湾建設局 海域環境課

TEL 045-211-7427
FAX 045-211-0204